

車椅子テニス選手の実践における  
「クラス分け」と「障害」の理解に関する質的研究

順天堂大学  
スポーツ健康科学研究科  
学籍番号：4118024  
氏名：竹下 直隆

【目的】

本研究では、選手たちが車椅子テニス競技の活動を通じ、どのような意義を感じているのか、自身の「障害」や「クラス分け」をどう捉えているのか明らかにすることを目的とする。

【方法】

車椅子テニススクールでの実践に対して参与観察を、また 11 名に対して半構造化インタビュー調査を行った。分析には GTA を援用し、得られたデータをコーディングし、相互に比較・検討することにより、いくつかの「概念」と「カテゴリー」を導出した。

【結果】

車椅子テニスの魅力に「健常者と一緒にテニスができる」が挙げられた。この点は車椅子テニスの「非障害者スポーツとしての障害者スポーツ」の要素があった。選手たちは、健常者と一緒にプレーすることができるという特徴から、自身の障害を必ずしもネガティブなものとして捉えていなかった。クラス分けに対しては、「基準が曖昧」などの意見があった。しかし、その曖昧さこそが車椅子テニスの面白みを生み出していた。また、様々な障害の選手が同じクラスで戦う車椅子テニスは、活動を通して個人の障害が焦点化されていなかったことも明らかとなった。これらの点は障害を越えたテニス固有の論理であったといえる。

【結論】

本研究では、車椅子テニス選手に対する質的な調査を実施することから、障害をネガティブなものとして捉えない車椅子テニスの固有の論理を明らかにすることができた。今後は更に対象者を増やして、本研究の結論を検証していく必要がある。